

平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : IK介護グループホームスマイル

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500064		
法人名	岩手環境保全株式会社		
事業所名	ik介護グループホームスマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地1		
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 2 月 7 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500064&SCD=370>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 地域交流 ・毎月のスマイルにっこりデーと8月のスマイル祭りで施設を開放し、地域交流に努力しております。 ・併設しているデイ・サービス利用者との合同行事で交流。 ・看護実習生交流。</p> <p>2. 二人夜勤体制や急変時の対応の定期的訓練を実施し、安全で安心な生活を提供しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者は、家族の一員との考えでお互いを認め合い、事業所名スマイルに象徴されるように笑顔で過ごせる支援に取り組んでいる。全館バリアフリー構造でトイレや浴室はプライバシーに配慮され、清潔に保たれている。食事は調理の経験豊富な職員を中心に、季節のもの、目で楽しめる献立とし、硬さ、塩分などの個別の対応と体重の変化により調整し、適宜カロリー計算して裏付けて適切に提供されている。夜勤が2人で、夜勤専門の看護師が配置され、緊急時の対応や重度化した場合にも全人的ケアができる体制は適切である。地域との関わりでは、事業所と利用者の支援者として運営推進会議のメンバーを招集し、意見交換やアドバイスがあり関係を築いている。職員は行動目標をもち研修を活かし質向上へ積極的に取り組み、利用者の視点に立ち、サービスが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名：IK介護グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和しております。日常生活に理念を共有・実践できるように心がけています。	地域との和の関わりを大切にする中で利用者と職員が共にゆったり楽しく手をつないで過ごすことを理念とし、職員は、抑制や拘束は安全ではないことを確認し合って、自然の流れで見守り、利用者が自宅での生活に近い暮らしが出来るよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月15日をつきあいデーと称して地域の方や家族が利用者とレクリエーションやオヤツを共にする機会を作っております。町内の祭り際には、子供神輿に施設へ立ち寄っていただき、施設を知っていただく機会を作るようにしております。幼稚園や保育園の園児の訪問で楽しく交流を行っております。地元のクリーニング屋を利用し、便宜を図っていただいております。	事業所独自のイベントや関連事業所と合同で行なうイベントを中心として地域の方々と交流する機会を多彩に取り組み、理念どおり地域との繋がりを工夫しながら見事に実践している。イベント情報はホームページや地域のお店に協力を得て店頭に掲げてお知らせしている。自治会を通して地域に回覧を計画中である。	地域との繋がりを積極的に進めているが、更に地域の方々が事業所に何を求めているのかを把握しイベントに活かすことや、地域に還元するため出向くこと等でホームが地域の拠点となる要素を持っており、今後に期待する。また実習看護学生と地域との交流の活用も一考である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の時、介護相談コーナーや介護用品展示コーナーを設けました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等の出席で2カ月に1回開催しております。今年は消防署や駐在所の方を招き貴重な意見をいただいております。	運営推進会議は定期的に行われ利用者の活動報告やサービス提供中での”ひやり・はっ”した出来事の話し合いが行われ出席者からアドバイスがあるほか、前行政区長さんのお話を聞くなど、事業所の支援者が広がっている。なお、この会議での情報がスプリンクラー設置に繋がっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成22年6月に運営推進会議に出席していただき、ホームの状況を伝え、また「地域との連携」について拝聴し、市との連携を図っております。	市役所の担当部署に出向き利用者のアクシデントやインフルエンザの報告や指導を受けたり、情報交換を行なっている。運営推進会議では意見やアドバイスをもらっているほか、電話等で相談するなど協力関係を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	設立当初からこの施設では研修の下に身体拘束はしないという管理者・職員一致の意見でケアをしております。	先進的な取り組み資料を参考とした研修のほか、特に言葉遣いには気をつけ独自のマニュアルを作り確認し合っている。日常生活ではダメといった制止する言葉遣いを使わず見守りに対応している。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	設立当初より虐待防止について学び、理念に基づいて援助していけば虐待はないと考えます。また、利用者に絶対言うべきではない言葉を時々確認して気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の入居中の利用者は皆家族がいるので今現在活用する方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明し、利用者家族にできるだけ納得していただけるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを基に意見を受けとめ、また面会の折に家族の気持ちや意見を聴くようにしております。利用者の気持ちや状態把握にお好みリストを用いて日常生活に生かしております。意見箱を設置しております。	利用者、家族の率直な意見を伺う機会としてアンケート調査を実施しており、その結果から職員が気付かない部分の指摘があり、例えば、「禁句と対応」の研修やその実践に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務改善会議、介護部代表者会議を通じて意見や提案を聴いて業務に反映させております。	今年は猛暑で利用者が不眠や食欲の低下がみられ、職員から生活環境の改善の求めが上がり素早い対応がされている。業務では、業務度、業務量を調査し、夜勤時の業務見直しを行うなど、管理者と職員とが自由に話し合える雰囲気にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はグループホームの仕事にやりがいを持っており、また管理者は働きやすい職場環境を作ることに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会があれば積極的に参加してもらっております。それを施設内で発表してもらい、知識の共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の同業者と交流する機会を作っております。他のグループホームと交換研修を実施して交流や意見交換をしております。スマイル祭りで他のグループホームを招待し、交流しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ多くの情報を取り入れたうえで本人と面接し出来るだけ早く馴染みになれる様にしております。また事前に施設を見ていただき慣れ親しんでいただけるように配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設を見ていただき家族の意向に沿える環境か判断していただいております。また家族の心配や要望を十分に聴くようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや要望を十分聴きそれをケアプランに生かしております。本人や家族の不安を早く解消できるように、また信頼関係を築けるように配慮しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたりゲームをしたりテレビを見たりして家族同様の生活ができるように努力しております。ただし馴れ合いにならないようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや思いを理解した上で面会外出などの機会を多く持ってもらえるようにしております。また創立3周年記念や夕涼み会など家族参加の行事を計画し協力をいただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅などの外出外泊の機会を作ってもらえるようにしております。面会に来てくれた知人の方にはまた来ていただけるようお願いしております。併設のディサービスとの交流も大切にして馴染みを深めております。馴染みの場所へスペシャルデーと称して利用者と職員が出かけることもあります。	ホームでは家族との繋がりを大事にしており家族の迎えで1日おきに自宅に外出する利用者もあり、家族関係の継続的な支援を働きかけている。また、利用者のお好みの場所へ職員と行ったり、家族全員の来訪機会を設けたり温かみのある支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築けるように座席の配慮や職員が間を取り持つようしております。また利用者同士が共に仕事やレクリエーションが楽しみ合える様に配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了してもお見舞いに行き様子を見たりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好みリストを活用して本人の意向等の把握に努めてアセスメントのツールとしております。	入居時のアセスメントシートを基に職歴や生活歴等を通じて思いや意向を把握している。利用者の潜在的な思いの把握に、お好みリストとして共通の方法をとり、日常の呟きや行動によるサインを記録し見逃さないように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味・特技などを事前調査や面会時に情報を得るようにして馴染みのものを居室に置くなど日常生活に生かすようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換を密にし、バイタルチェック・排泄状況など利用者本人の状況を総合的に把握するようにしております。またできないことよりできることに視点をおいております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは職員全員が目を通し、その意見を基にケアプランを作成し、反映させております。	日頃の関わりから家族・利用者の思いや希望をお好みリスト、介護記録等に把握しており、特に介護記録は経時的に詳細に記録され、これらの情報をもとに職員間で意見交換等を行い計画づくりに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護個別経過記録や申し送り時または必要時に情報を共有しプランの見直しに生かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が宿泊を希望される時など状況に応じて援助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方ボランティア団体の方の訪問を受け入れて活用しております 駐在所の方の指導、火災避難訓練では消防職員の指導を受けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き、かかりつけ医への受診は家族対応でお願いしております。受診の際は健康状態の情報を提供、受診後の結果を家族から報告を受けております。	医療受診は本人・家族の希望するかかりつけ医としている。医療受診のときは日常の健康状態を情報提供したり、医療機関から指示を受けたり適正な医療を受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員・看護職員はお互いに情報を共有しながら利用者の異常に早く気が付き受診に繋げております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について利用者が安心して治療できるように病院関係者と情報交換や相談しながら行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針が出来ております。まだ該当する利用者おりません。今のところ契約時に本人家族への説明に留まっております。	重度化や終末期の対応に向けた指針は整備されている。また、医療機関との連携や看護師が多く配置され体制は整っており、いつでも対応できる態勢にあるとしている。なお、利用者・家族には入居時に説明済みである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より用具を借りてきて心肺蘇生法やAEDを研修しております。また急変時に備え連絡網を作成しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災の通報訓練や初期消火・避難訓練をやっております。母体である環境保全、ディサービス、隣接の花巻貨物との連携を図っての避難訓練も行っております。	消防署立ち合いのもと、また隣接企業の協力を得て避難訓練を実施している。通報装置は消防署と警備会社の2か所に接続されているほか、スプリンクラーも設置し、調理はIH対応で火気はなく安心安全に特に気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような支援に努めております。また絶対利用者には使用してはいけない言葉のマニュアルを確認しております。個人記録は書庫に保管管理、メモ類も裏返して個人情報取り扱いに注意を払っております。	利用者・家族のアンケート調査結果から、普段何気なく使っていた言葉を人格を尊重する意味から見直しをしたり、会話や話し方、使ってはいけない言葉などをマニュアルとして作りあげるなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者のそばに寄り添って利用者の気持ちや希望を引き出せるように心がけております。またお好みリストを利用しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	娯楽・レクリエーションへ無理に参加させる事がないように利用者一人一人の思いをキャッチできるように心がけております。利用者の出来ることを見つけてグループホームでの役割を持ってもらえるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望する理容・美容店でおこなっております。希望者にはホーム内で理容をしております。時々、口紅やネイルケアをしておしゃれができるようにまた、衣類はいつも清潔にし、希望する衣類を着用するようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者・職員と一緒に食事の準備片付けをやるように心がけております。利用者の好き嫌いや健康状態、一度に食事を摂れない方には時間帯をずらしたり等、配慮しております。状況に応じてミキサー食を作っております。	職員は利用者の中に入り一緒に食事をして家庭的な雰囲気がもてるように工夫している。利用者の好みを中心に献立を考え、利用者の得意なところを活かし下ごしらえ、味付け、盛り付けなどを一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事前には口腔体操を行い、食事のときには各テーブルに職員も入り皆の摂取状態が分かるようにして食事量・水分量を把握しております。定期的に体重測定やカロリー計算をして利用者の健康には気を付けております。利用者の状況に応じてミキサー食や刻み食を提供することもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後に、個々の状態に合わせて歯磨き・うがい・入れ歯洗浄の声掛け・みまもり・介助を行い口腔の清潔に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や排泄チェック表で排泄パターンを把握して、できるだけトイレ誘導をしています。便秘がちの方もおり体調が整えられるよう下剤使用を含め支援しております。	排泄チェックや行動の観察から、排泄のタイミングを見計らい、おむつを使用してもトイレ誘導を行なっている。特に便秘は利用者の行動に変化をもたらすため、排便コントロールの援助を行なっている。またウォシュレットの使用を励行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容・水分の摂取量や活動等を通して体調を整えるようにしております。なお便秘がちの利用者にはかかりつけ医の指示を仰ぎ、薬、浣腸をしようしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・利用者全員が介助が見守りの必要な方なので自由に入浴できる状況でないため、時間帯を決めて支援させてもらっております。また入浴のなかった利用者には足浴を行っております。	介助や見守りで個々にゆっくり入浴できるように配慮している。入浴時には全身の観察をして早めの治療に結びつけている。足浴は個々の桶を使い、入浴しない日は部分洗浄で対応している。入浴を嫌がる方にはタイミングを見計らいお誘いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え日中の活動を促しております。利用者の生活パターンに合わせて支援しております。冬季には湯たんぽを準備して安眠できるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者本人の薬がよく確認して、また飲んでしまうまで見届けております。薬の変更や追加があれば、連絡ノートや引継ぎ時に、薬効や副作用などを報告し職員皆に知らせしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意な事を基に役割を持って生活しております。また力を発揮できるように感謝・激励の言葉をかけるようにしております。短い時間でもレクリエーションを取り入れるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のほとんどは移動時の介助・見守りが必要な方々なので自由に外出は難しいです。できるだけドライブ、散歩の支援をしております。また、庭の花壇や裏の畑に出て楽しんでおります。一利用者の方が花と緑の全国大会に家族、地域の方々の協力で参加しております。	家族の迎えで隔日に自宅に外出する方や、地区の方に誘われて温泉に出かけたり、敬老会への出席もあり、家族や地域の協力のもと外出支援がされている。日常的には利用者の体力やADLを考慮した支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時から現金を所持している方はおりませんでした。スマイル祭りや地区の夕市の機会に合わせて買い物支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができるように対応しております。手紙が届けられたら返事を出せるように、また年賀状の支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓は半円形の大きなガラス張りである、広々としたホールに季節の花を飾り、写真や利用者の作品を展示して、季節感や柔らかな雰囲気を作るようにしております。ホールからは車の往来が見えたり、出窓からは花壇の花や、猫が歩くのを見て喜ばれたり刺激もあります。	玄関やリビングに大きな風景画や利用者の作品、イベントの写真のコーナーがあり、これが会話や話題のきっかけになっている。ソファでテレビを見たり、つづく和室で過ごすことが出来る。職員は利用者同士の関係性を調整しながら、利用者が人の気配を感じつつ穏やかに過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの空間を広くとっており、その中に4つのテーブルを配置しソファを置いております。そこで自由に雑談をして過ごしております。また広い和室もあり、そこで横になり過ごしたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の馴染みの品、思いでの品(ぬいぐるみ、鏡台、写真等)を持ってきていただき、利用者の部屋作りをしていただくように家族にお願いしております。居室で家族とゆっくりできるように配慮しております。	自分が長い間使っていた思い出多い鏡台等の持ち込みや、冷蔵庫を置いているほか、居室も自分の好みに合わせ畳敷きにしたり、自分の作った作品を置くなど生活感に溢れ、温かみのある自分の部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置をしており、状態に応じてシルバーカー椅子を使用できるようにして安全には気を付けております。部屋の入口には名前を表示したりトイレも分かり易く表示しております。		